

令和6年度第1回岡山県立博物館協議会議事概要(要旨)

日時 令和6年10月1日(火) 13:30~15:23

会場 岡山県立博物館 講堂

出席者 委員：岡本議長、光本副議長、忠政委員、栗原委員、明楽委員、美咲委員、池田委員、岡野委員、内田委員、岡田委員、鳥井委員

博物館：細川館長、内池副館長、間野総務課長、重根学芸員、平田学芸員、國定副参事、上岡主任

文化財課：浜原課長

欠席者 藤原委員、辻田委員、三田委員、伊勢崎委員

1 開 会

細川館長あいさつ

2 議 題

- (1) 令和6年度事業について
- (2) 令和7年度展覧会計画(案)について
- (3) 長期展覧会計画(案)について
- (4) 第3次岡山県立博物館中期目標の達成状況について
- (5) その他

【委員からの質問(回答)・意見・提案・要望】

議題(1) 令和6年度事業について

- ① 県立美術館は同じ県立の施設だが連携は取れているのか。県立美術館に来た人が県立博物館の展示を知ることができれば、行こうと思う人が増えるかもしれない。県立博物館の取組を知ってもらえるようしっかり宣伝してほしい。また、茶碗の特別展は県内の茶道団体等と連携してはどうか。(提案)

議題(2) 令和7年度展覧会計画(案)について

意見等なし

議題(3) 長期展覧会計画(案)についてその他

意見等なし

議題(4) 第3次岡山県立博物館中期目標の達成状況について

- ① 博物館の役割として、県内の文化財の収集・保存、調査・研究、学校教育との連携と展示は並列しているが、やはり展示に対して意識を強く持ってほしい。集客よりも展示にこだわるという考え方もあるが、展示室も改修され見やすくなったので、集客を増やすことも必要だ。展示内容を判断する要素として、学芸員にとっては面白いが、専門的すぎないかということも考えてほしい。(意見)
- ② 展示室にたくさんの資料が展示されているが、ベスト3とか、ぜひこれだけは見てほしいとかいうものがわかるようにしてほしい。子ども連れのような来館者にもわかりやすいと思うので、ぜひ検討いただきたい。(要望)
- ③ 所蔵資料の補修が0件だが、予算的に難しかったのか。(質問)
⇒資料の修理や購入の予算として30万円程度あるが、令和5年度は資料の購入に充てた。

議題(5) その他

- ① 来館者の県外と海外の割合はどうか。(質問)
⇒アンケート結果からは把握できない。
インバウンド対応が重要だ。海外からわざわざ見に来る人もいるということ意識して展示を検討いただきたい。また、海外からの来館者の割合がわかるようにしてほしい。(要望)
⇒補足するが、全来館者のうちの外国人の割合は、9月末の時点で約16000人の来館者に対し、約1400人で1割にも満たないが、すでに昨年度の年間1545人に迫る勢いだ。令和元年度は1300人ほどだったので、年々増えている。

- ②来館者アンケートの意見に子ども向けのを充実してほしいというのがあるが、私も強く思っている。年に1回でもわかりやすい内容の展示を加えてもらいたい。(要望)
- ③県立博物館のミッションに則した展覧会となると、今まで知られていないものを展示し、共有していくということになる。集客が難しいテーマになることもあるだろうが、資料調査や研究の成果を示す機会でもあり、こういった観点も重要である。(意見)
- ④今年度の企画展示は、着眼点なども含め、県立博物館の底力をより強く感じられる。若い学芸員の新しい目線に注目しており、話を聞いてみたいと思っている。今までメジャーなもの影に隠れてしまっている、マイナーだがすばらしいものを、若手ならではの情熱や新しい視点でどんどん発信してほしい。そのことが地域資源にさらに力を与えてくれると思う。(要望)
- ⑤茶碗の特別展は茶道教室を行っている公民館が結構あると思うので、チラシを配布すれば多くの方に来ていただけるのではないかと。(提案)
- ⑥子ども向けに穴埋め問題を作って、展示の説明を見ながら埋めていけば夏休みの自由研究になるようにできれば面白い。また、授業におけるタブレットの活用方法として、博物館に来てQRコードを読み取ると詳しい説明を見ることができるようになれば面白い。(意見)
- ⑦現在の入館料は一律だが、姫路城とか外国人と料金を変えるところが少しずつ広まっている。岡山県として踏み切れるかどうかではあるが、そうなれば料金の違いで外国人の割合も簡単に把握できるし、県の施設なので県民にはリーズナブルな価格で、外国の方には施設利用に必要な料金を払ってもらうという考え方もできる。将来的にはこういった検討も必要になる。(意見)
- ⑧2階ホールは大きな窓から見える眺めが素晴らしい反面、何か殺伐とした雰囲気もある。丸見えのシャッターに目隠しをするなど、明るい感じのスペースにしてもらいたい。(要望)
- ⑨スマートフォンの使用について、カメラで撮影不可のものを撮影してしまうリスクはあるが、入館時にスマートフォンを使用する際の注意事項を伝えることができれば、海外の人向けにうまく活用できるのではないかと。また、日本人にとっても現物を見るだけでなく、いろいろな情報を得ることに使えるのではないかと。(意見)
- ⑩インバウンドへの取組として、後楽園に来ている人が流れてくるようにできないか。先日行った県外の美術館は、入館からすべてスマートフォンで行い、キャプションもQRコードを読み取って表示され、学芸員の推しポイントやおもしろエピソードも入っていて面白かった。外国人向けに多国語で表示できるようにもなっていた。うす暗い展示室でも手元で見ることができるのでとても読みやすく、さらに保存もできるので非常に良かった。県立博物館はまだまだ伸びしろがあると思うので、ぜひ頑張ってもらいたい。(意見)
- ⑪後楽園は土木部が所管し、県立博物館は教育委員会、岡山城は岡山市であり、連携はしているがどうしてもそれぞれの中で完結せざるを得ない。連携という言葉は出てくるが、誘客に関しては観光課がコミットしてもよいのではないかと。後楽園も県立博物館も県の施設なので、どうしたら来てもらえるか、後楽園に来た人をどうやって博物館に呼び込むかについては、観光課の知見も入れて協議するような場があってもいいと思う。(意見)